

いのち 木の生命よみがえる | 川北良造の木工芸

1997
作品ナンバー 0509

文部省特選 文化庁優秀映画作品賞
第41回日本紹介映画・ビデオコンクール銀賞・外務大臣賞

ロクロによって材料の木を回転させ、刃を当て削り出し成型する挽物（ひきもの）は、指物（さしもの）、くり物等と並んでわが国の木工芸の代表的制作技法の一つ。この「挽物」で初めて重要無形文化財保持者（人間国宝）となった石川県山中町の川北良造（かわきたりょうぞう）の作業過程を記録した。しかし、単なる記録にとどまらず川北良造という作家の内面まで踏み込んだ。

■ 協力

文化庁 東京国立近代美術館 石川県立美術館 石川県山中漆器産業技術センター 石川県挽物轆轤技術研修所 山中漆器伝統産業会館 滋賀県永源寺町
山中漆器ろくろ技術保存会
正調山中節・三代目米八



石川県山中町は挽物の産地として知られている。挽物では、はじめて人間国宝となった木工芸家・川北良造。

映画は櫟（けやき）材を用いて盛器を制作していく作業工程を中心に、山中木工の起こりや、師匠であり父の川北浩一（かわきたこういち）や氷見晃堂（ひみこうどう）らの作品、山中で活躍している仲間たちの様々な技術、彼らと始めた漆の木の植栽、地元の研修所で後継者育成にも努力している川北の姿などにも触れる。

記録
フィルム
カラー／33分

- 企画
（財）ポーラ伝統文化振興財団
- 監修
白石和己（東京国立近代美術館工芸課課長）

スタッフ

- 製作
村山和雄
- 脚本・演出
村山正実
- 撮影
村山和雄
- 撮影助手
木村光男
- 照明
本橋俊男
- 録音
堀内戦治
- 効果
帆刈幸雄
- タイトル
菁映社
- 編集
吉田栄子
- ネガ編集
加納宗子
- 選曲
山崎 宏
- 現像
IMAGICA
- 解説
中西妙子